

# 第 64 期公益社団法人有隣厚生会事業計画

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

当法人は、医療、保健、福祉、教育その他、より良い社会の形成に関する事業を総合的に一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与することを目的に平成26年4月1日に公益社団法人として認定を受け、より公益性の高い法人になれるように医療を中心に事業を展開してまいりました。

昭和30年、御殿場市に活動拠点を移し、地域の公益のため医療保健活動の一つとして富士病院を開設運営しました。また、地域医療の継続のために富士小山病院、東部病院を継承、在宅医療の推進策として地域初の訪問看護ステーションごてんばを開設、続いて疾患を持つ認知症患者のためのグループホームごてんばも開設しました。本年度からは、共立産婦人科医院を加え、これらの事業が一体となって一層地域貢献を果たして参ります。また、2025年には、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上となり、医療と介護の両方を必要とする方が増加する中、地域包括ケアシステムを見据えて、行政との協力体制を推し進めていく必要があります。

当法人の3病院・1診療所は、多くの診療科の疾病治療等を行っております。3病院は共に二次救急を中心に救急医療等の政策的医療、専門医療や健診事業も実施し、さらには地域包括ケアシステムがスムーズに推進できるよう、東部病院に地域包括ケア病室を計画します。在宅医療や高齢者介護、医療従事者育成支援など、医療・介護等の全般に携わり、高度な技術を持って実施し、当地域における地域医療の確保や住民の健康維持・増進のため不可欠な存在となっております。1診療所は、地域の安心安全な出産、子育ての一端を担い、3病院同様にスタッフ体制を整備し、当地域には唯一のお産のできる産科として不可欠な存在であります。

そして、3病院・1診療所の特殊性について、地域住民に周知を図り、各々の機能分担を進め、一つの病院のごとくの連携で運営していくことで、厳しい環境を乗り切ってまいります。

当法人は、今年度も今までの公益活動を継続し、発展させ住民の利益になることを推進し、一層の御殿場市・小山町の医療・介護・出産の拠点としての機能・役割を果たしていく所存です。

法人の発展と安定運営を進めるため、今年度は法人への寄付制度を研究し、寄付の募集等を検討してまいります。

また、富士病院は、3年前に建物の耐震化を実現し、現在の施設基準にかなう医療環境を整えましたが、富士小山病院、東部病院につきましては、平成元年建設の施設であり、築後28年の経過となり、現在の施設基準に合わないことや老朽化も著しいため、建て替えの必要度が高くなっております。今後決算において余剰が生じた場合は、来たるべき建設に備えて資金の積み立てをしてまいりたいと考えております。

また、富士病院の旧施設で狭小となっているリハビリ部門や職員の更衣室、倉庫等の間

題を改善するため、隣接の土地、建物を取得しました。

#### 公益事業の内訳

1. 病院・診療所の運営
2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
3. 高齢者のグループホームの運営
4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
5. 医療人材の養成支援
6. 病院、施設等における各種相談助言

#### 1. 病院・診療所の運営

御殿場市、小山町の地域を中心に、地域医療の確保とこれを通じて地域社会の発展に寄与することを目的として、二次救急医療、急性期医療、行政や住民の医療ニーズなどに対応した診療科の開設運営、その他これらに付随または関連する事業等を一体的に実施しております。

現在、急性期疾患に対応する一般病床を持つ富士病院、一般病床及び介護療養病床を持つ富士小山病院、一般病床及び腎臓病(透析)センター・血管創傷管理などの機能に加え、地域で確保できていない包括ケア病室の運営を手掛ける東部病院、さらに新たに医療法人が運営していた駿東共立産婦人科医院について、医師等の人材の確保が長期にわたり困難な状況が続き、存続が危ぶまれ、当法人と駿東共立産婦人科医院が協働し、関係機関と相談してまいりました。本年4月から、当法人が共立産婦人科医院の産婦人科部門の運営を行うことになりました。

富士病院は今期も救急に力を入れ、今までの3病棟を超急性期病棟、一般急性期病棟、慢性期病棟に分け、ベッドコントロールを機能させて、受け入れ体制の強化を図ります。またIT化の遅れを取り戻すべく、今期、電子カルテの導入に取り組みます。6月入院部門の導入、8月外来部門の導入に向けてカルテ委員会を活発に行い、スムーズな移行を実現し、平成30年度からはDPCの導入に備えます。若いマンパワーをもっと発揮出来るような組織の見直し、ワークライフバランス事業で学んだ労働環境の改善により、労働意欲を向上させ、地域住民の為に良質な医療の提供することに繋がります。合わせてこのワークライフバランスについては継続して委員会として活動を継続していきます。

富士病院の救急の機能を充実させるためには、東部病院、小山病院における救急の負担を徐々に緩和し、併せて、ある程度回復した患者を2病院に転院させ、在宅復帰に向けたリハビリ強化と介護の必要な疾患のある患者の受け入れに傾注します。結果として、各々特色を伸ばしていくことで機能分化を進めていきます。また、各病院とも満床など受入困難な状況のときにはカバーしあいます。

精神科疾患の対応については、グループに加わった医療法人社団沙羅 東富士病院(駿東郡小山町須走)と緊密な関係の中で行ってまいります。

健診事業は、御殿場市、小山町の住民健診(特定健診、乳がん、子宮ガン等)を中心に、最近の医療機器や技術力等病院の持っている機能をフルに生かした精度の高い検査を実施し、その結果データを分析し、市町の医療計画への反映や住民の疾病予防と公衆衛生向上に寄与していきます。また、平成30年度から胃部レントゲン検査は内視鏡とどちらかの選択とする検討がされておりますが、3病院では内視鏡医師を確保しており、症例増加を期待します。併せて住民の健康意識の向上と啓発活動も積極的に取り組んでいきます。

#### 1-1 富士病院の運営

一般外来は、地域内外の多くの患者に対し、地域の要望に応じて開設しており、その充実と継続に務め、中心となる内科一般は親切丁寧な診療を継続していきます。また専門外来も充実させ、開業医等からの紹介の受入と診察後紹介元の開業医に情報をお返しすることを更にスムーズに行えるよう各病院ともに地域医療連携室の役割を徹底させます。予算の概要は外来患者数一日平均512人、日当点1,420点を予想。健診事業としては一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科検診、乳がん検診(今年度より誕生日実施)、小児検診等市町の行う健診事業などのほか、出張健診も行うことで住民ニーズに対応して幅広く地域の健康管理に寄与します。さらに、検査結果に基づいての診断、健康管理及び予防等の相談にあたり、包括的な対応をし地域住民の健康管理に寄与している。又、今まで外来で診療していた2次健診の診察を健診科で専門医に診察できるシステムとすることで、一次健診から一貫した追跡を可能にし、又待ち時間解消に繋がるので、導入する予定です。

救急医療は地域の夜間や祭日における二次救急医療を引き続きできうる限り受け持ち、広域救急の協力はドクターバンク制度を利用して消化器疾患の受入体制の強化を図りながら継続する。しかし御殿場地域救急患者の増加、満床状態の継続、小児救急においては医師不足で十分な対応ができていないケース等課題も多い中、現状の中で、精一杯の救急医療を務めます。

入院については、看護師不足から一昨年、ICUを一時的に休止し、3病棟の7:1の維持と充実した医療提供体制作りに取り組めます。また今年は、3年目を迎えたワークライフバランス事業を通じて取り組んできた労働環境の整備、スタッフの勤労意欲の改善、教育環境の充実等により離職率を改善し、働きやすい、働いてよかったと思える病院にいかにか近づいたか評価する年です。そして今年度中に何とせよハイケアユニット復活させます。また新たに病院の評価として厳しくなった看護必要度の基準をクリアするためにも、救急患者・重症患者の受け入れを強化します。

以上により7:1入院管理基本料を維持しつつ、今年度中には懸案のハイケアユニットを稼働させ、救命率を上げ、市民の期待に応じていきます。

現在計画の電子カルテ化は、今後の病院運営のためにスムーズに導入させ、ベッドコントロールの機能を確立させ、他病院との連携でスムーズな入院運営を図り、救急患者を断らない体制づくりを確立します。

以上により入院日当点は6,480点、入院患者は127名を目指します。

専門領域として

① 循環器医療

24 時間 365 日体制で専門医を配置し、緊急の心筋梗塞等にカテーテル治療などの対応が何時でも出きるスタッフ体制を整え、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を果たしていく。また、不整脈疾患のアブレーション治療の増加も期待する。また第2カテ室血管連続撮影装置の更新をH28年度実施し、緊急カテーテル検査が重なる場合もスムーズな対応が可能になったが、スタッフ不足があり、マンパワーの教育と充実が課題で残っており、今期スタッフ教育と育成をカテ室の目標としています。また4月より1名常勤の循環器内科医師が加わり、スタッフの増強を図り、優秀な人材を育成していく。

② 小児科

この地域で唯一小児科の入院ができる施設である。医師の待機 24 時間 365 日体制で地域小児医療を守ります。今年度より若い常勤医師2名が採用でき、大学派遣の医師1名減少しますが、常勤2名から3名体制に強化でき、救急の受け入れの改善に繋がります。

②吸器内科

昨 27 年に担当常勤医師が退職した関係で、昭和大学呼吸器科専門医が毎週木曜日勤務開始。常勤の内科医師で呼吸器のスキルの有る先生の募集を継続する。

③糖尿病内科

日本糖尿病学会認定教育施設として、チームで糖尿病指導にあたり、その管理に傾する一方で、糖尿病教室、学会、研究会での発表の他ドクターズレストランなどのイベントを開催し、スタッフと患者様が同じ目線で療養指導に取り組んでいく

糖尿病の啓発活動を行っていく。御殿場地域糖尿病研究会を発足させ、連携強化を図る。また昨年月・火・金勤務の糖尿病・代謝内科の医師に加え、昨年度より常勤で糖尿病専門医を目指す内科医師も加わり、患者増加に対応していく。また糖尿病療養指導士の育成事業も継続する。

④消化器内科・消化器外科・大腸肛門科

当法人では、昼間を中心に吐下血をはじめとする消化器疾患に対応する救急医療を実施している。又内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施する。また抗がん剤による化学療養も整備された安らぐ環境の中で安全に施行している。今までの体制に加えて、常勤の消化器内科医師が加わり、夜間の急患の対応も週前半は対応できるようになった。また市の胃部検診が内視鏡とレントゲンの選択制となる予定で内視鏡増加に対応できるよう体制とした。

肛門科におけるジオン注射など特殊な手技も積極的に取り込み実施していく。

⑤乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓発活動などを実施していく。H28年4月から勤務の週3日の非常勤医師も健診に加わり増加す

る患者の対応を行う。

#### ⑥整形外科

脊椎・腰椎の手術症例が急増し、骨折、膝関節手術の増加も期待できる。リハビリの充実などもあり、MRIの活用も進んでいる。PT, OT, STの増員を計画、グループ内の応援にも応えられるように教育していく。常勤3名と順天堂静岡病院、県立足柄上病院からの派遣の先生方を含め、非常勤医師4名の体制でリハビリを活用して患者の機能回復を目指す。

#### ⑦泌尿器科

当地域で唯一の泌尿器科の入院ができる施設であり、皮膚排泄機能認定看護師による指導も実施している。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破砕治療患者も多い。

#### ⑧眼科

当地域で、眼科の入院の対応ができるのは、当法人の2病院のみであり、白内障以外にも最新のOCTにより、難しい症例も撮影でき、幅広い診療に役立っている。また、レーザー光凝固装置を最新のものに更新し、パターン照射により痛みなく効果的な治療を実施し、OCTとあわせ緑内障の分野で最先端治療ができる施設となる。

#### ⑨脳神経外科・神経内科

頭痛・めまい・痺れ・物忘れ外来など徐々に地域に浸透し、外来患者も増加、国保脳ドック検診も増え、患者の脳の管理を担う。高齢者の管理も含め、健診から重症まで幅広く担っていく。

#### ⑩皮膚科

アトピー性皮膚炎から皮膚潰瘍、悪性新生物の早期発見まで広範囲の治療・手術を担当。外来患者も多い。また昨年と続いた地域老人施設の疥癬対応指導・診察を今年度も対応していく。さらに皮膚のシミをとる機械を導入し、悩んでいる患者様の心のケアに繋げたい。

#### ⑪麻酔科・ペインクリニック

常勤医師2名と非常勤医師1名の体制で各種手術に対応する

また麻酔科指導医による本格的なペイン外来も、赤外線レーザー治療器を活用して、難治性疼痛の緩和に利用者増加を見込む。昨年に引き続き、静岡県東部地域で研修施設がなく、困っている救急救命士のビデオ口頭鏡及び挿管の研修を今年度も継続する。

#### ⑫婦人科

一昨年より子宮ガン検診が誕生月検査となり、スタッフの負担は緩和されたが、婦人科医が不足し、共立産婦人科からの派遣で週2日診療していたが、平成29年4月より、共立産婦人科の法人加入により、聖マリ等の協力で常勤医師の確保などが実現し、外来機能を上げることができる環境となった。婦人科のドック、健診にも力を入れがんの予防活動にも積極的に貢献していきたい。

## 1-2 富士小山病院

2025年問題にむけ、2018年度には、介護報酬・診療報酬の同時改定のみならず、第7次医療計画・第7期介護保険事業(支援)計画・第3期医療費適正化計画がスタートします。つまり、今年度は、今後の医療・介護施策において極めて大きな節目となる年を迎える準備の年です。まずは、懸念事項でありました当院の介護療養病床は、平成29年2月上旬に提出を予定している介護保険法の改正案にて、来年度末をもって廃止期限を迎える介護療養病床は、新施設類型として介護医療院とし、転換の準備のために設ける経過期間は、2018年度から2023年度末までの6年間とされました。法人内の慢性期及び介護療養の位置づけとして継続して運営できることとなりました。今後は、恒久的に運営できるように転換の準備を行っていきます。

病院の安定継続的運営を行っていくには、職員の確保が必要です。そのために職場の環境整備が必要となります。昨年度はオーダーリングによる院内の電子化整備を行い、10年ぶりに常勤医師の就任がありました。さらに獲得しやすい環境の改善として、まずは電子カルテに移行し、職員の軽減負担、患者の待ち時間、医療従事者の病院を選ぶ環境要因のアップを図ります。その他、就労環境の整備、設備のメンテナンス、医療機器の新規更新を行っていきます。

小山町の人口は、平成27年度国勢調査の結果、前回の調査よりも5.4%の人口減少となっております。当院も外来の減少により収益の悪化が堅調になってきましたが、昨年度に引き続き交付される特例交付金を、小山町民に安定的な医療提供を継続できるように有効に使っていきます。また、健診事業の強化を図っていきます。

## 1-3 東部病院

今、東部病院は、国・県が策定した地域医療構想をベースにした医療機能分担による、『地域から求められる当院の役割とは何か?』を問われております。

当院は、超高齢化社会と、迫りくる2018年度の医療保険・介護保険の同時改定に向け、富士病院での急性期からの入院受入だけではなく、当院として日常からの患者支援・急変時の入院機能を深め、『地域包括ケア病棟(病室)』の展開をしてまいります。

昨年度は、3階病棟の改修模様替えにより患者の療養環境の改善を図りましたが、今年度は看護職等の医療スタッフの増員を行いながら、透析室の移設・管理棟の建設を経て2階病棟を地域包括病室への改修を実施いたします。

現在、常勤医師2名の増員はできましたが、すぐに集患を求めることは困難ですので、収支均衡を目標といたします。

職員教育として、昨年導入したeラーニングにより、教育機会の増加と合理化を図りましたので、今年度も継続し、院内・院外研修会の参加率の引き上げや医療安全管理の徹底のため、ヒヤリ・ハット報告件数10%増を目標値にし、危険予知訓練(KYT)の実施、RCA分析による対策強化と職員の成長を図ってまいります。

## 1-4 共立産婦人科医院

これまで不足していた産婦人科医師については、富士病院との連携で、富士小山病院の牧野院長の取り計らいの元、聖マリアンナ医科大学から週2回日当直派遣が実現し、今期から週3日に拡大します。加えて4月より公益社団法人の採用であればと常勤医師が1名決定し、医師については体制が整ってきました。事務長を配置し、組織を固め、助産師・看護師・臨床検査技師・助手の採用と教育に取り組み、今までよりも、高い質を目指し、サービスの行き届いた産婦人科となるよう職員一同邁進していきます。

分娩については、29年度はお産350件、帝王切開については、50件を見込みました。外来については診療内容の充実とサービス向上で現在よりも増加を見込んでおります。

#### 1-5 医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からも医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などに出来る限り受け、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努める。

- ・御殿場市救急医療センターへの一次救急医療代行(年3回)
- ・救急センターの当直・小児科担当・放射線技師派遣
- ・医師会行事への医師・看護師派遣、緊急時受入
- ・災害時ボランティア活動、募金活動

#### 1-6 医療従事者による調査・資料収集・研究学会発表

社会的なニーズの高い医療、看護、公衆衛生等の分野における課題について、調査研究を行い、その成果を発表する。小児科では静岡県感染症発生動向調査を今年度も継続。さらに富士病院は年報にて各科医療の成果・報告と地域連携実態調査、入院、外来各種調査を一般に広報している。また、CKD対策のため、慢性腎不全患者の透析への移行状況を地域別、原疾患別等調査・研究し、診療に従事する多職種の方々と実態を共有し、慢性腎臓病の対策や診療向上に役立てたい。新しい課題を見つけ研究し、またノロウイルス感染に対する対応など経験からの対策を発表する等、今後も各分野において調査研究を通じて医学の向上に努める。

#### 1-7 オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めている。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しするなど積極的に取組む。共同利用の機器は内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図など広範囲であり、他病院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献している。またICT事業の一貫として、近隣の病院、開業医、施設と連携して連携カードによりどこからいつでも当院のサーバーに入り、必要な患者様の診療情報を閲覧できるシステムを開発、設置した。このことで紹介した患者様のその後の様態を紹介元から検索でき、その便利さから連携の要として期待し、昨年運用を開

始した。いろいろな課題も見えてきたため、修正し、今期はより多くの施設で活用してもらえるようにする。

## 2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

地域の病院等への通院が困難となった患者・家族のため、医師や看護師が不足している当地域において患者急変時に往診を行う関連医療機関を確保し、訪問看護ステーションを24時間体制で維持することは大変難しい。そんな中、この体制を維持し、今年度も富士病院を中心に3病院による内科疾患等へのフォローアップ体制により継続的な運営が行なわれ、地域の在宅医療の要の役割を果たしていく。昨年御殿場市内に訪問看護事業所が開設、今年度フジ虎の門病院、神山復生病院でも開設することから、お互い協力しあいながら、地域の在宅医療を支えていきたい。以上により、利用者数、訪問回数ともにわずかな減少を予想する。

### 【平成29年度予想】

- ・利用者数 110 名
- ・指示書依頼医療機関 23 施設 45 名
- ・訪問年間回数 7,000 回
- ・夜間休日相談回数年間 750 回
- ・夜間休日出動回数 350 回を計画しました。

また、併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格を持つ5名の職員が訪問看護ステーション利用者の要請に基づいてケアプラン作成に当たり、介護サービスの提供の確保がされるように努めたい。

### 【平成28年度予想】

- ・ケアプラン作成数 30 例

## 3. 高齢者のグループホームの運営

当法人が運営する高齢者のグループホームは、認知症で重度の疾病のある患者または生活保護受給者をはじめとする生活困窮者で、行き場に困っている方々を積極的かつ優先的に受け入れている地域密着型施設である。

入所者は、肺気腫、ペースメーカー埋め込み、心筋梗塞、尿道バルーン留置などの疾患を持った上に昼夜の行動が逆転するなど、いずれも他の介護施設では受入困難な方たちの受入に今後も力を入れていく。

当施設の入所者は、全員が富士病院での診療が必要であり、訪問看護ステーションからの看護を受けながら、医師の指導に基づき、家族に代わってホーム職員による食事や生活の介助を受けている。

### 【平成29年度予想】



昨年、御殿場市、小山町に相次いでオープンした介護施設の影響で、一時的に利用者は減ったものの、重症疾患を抱えた認知症施設として希望者が有る以上、継続していく方針である。利用料金を見直し、今期、利用者数平均を7.5とした。

- ・入所予想 8.8人(定員は9人)
- ・介護度5は1人、介護度4は3人、介護3は2.8人、介護度1は1人  
(認知症に加えて身体の介護度も大変高い特徴がある。)
- ・運営推進会議6回
- ・お花見などの催し年32回
- ・便りの発行6回

#### 4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

##### 4-1 セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、他が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めたい。

##### 4-2 健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを実施する。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供等を、病院内や市民交流センター等を会場として、無料で行っている。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行う。

##### 【平成29年度予定】

- ・市民公開講座「認知症に関する講演」4月予定  
御殿場市民交流センターふじざくら
- ・健康講座2017(富士小山病院)小山町(第12回おやま健康フェスタ)と共催  
6月17日(土) 小山町総合文化会館  
講演 林 秀徳(当院医師) 尊厳死について(仮)菜の花ホール  
おやま健康フェスタ 体育館  
富士小山病院ブース 医療介護相談、リビングウィル等 婚姻  
演奏会 土井 清子 うたとフルーツのしらべ  
パフォーマンス 高村 篤(当院職員) 大道芸
- ・糖尿病教室・健康講座

#### 5. 医療人材の養成支援

##### 5-1 医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習受け入れ、救急救命士の実習受け入れを行い医療に係る人材の育成を支援する。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献する。

特に地元の御殿場医師会が運営する御殿場看護学校については今期も多くを担当し、同校の基礎実習、領域別実習の多くを担当し、学校の講義においても当法人の医師、看護師等有資格者 28 人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行っていく。

#### 【平成 29 年度予想】

・大学:昭和大学、東海大学、日本大学など

学部(職種) 医歯学部、薬学、看護学部、臨床検査、臨床工学技士、理学療法士、言語聴覚士、救命救急士、ホームヘルパー2 級実習

#### 5-2 セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣する予定である。また認定看護師による公開講座を通じて地域の看護師のレベルアップを図る。[年 5 回計画]

#### 【平成29 年度予想】

・医師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、等による講演

#### 5-3 出前授業

地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者を目指す生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行う。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、「5-5 職場体験実習」に参加する道を開いている。学校側の都合でしばらく休止していたが、昨年より復活しております。

#### 5-4 職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受入る予定である。

#### 5-5 看護学生への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設に通っている人を対象とし、当法人の創案により地域の病院が連携して、奨学金貸与を実施している。奨学生が激減しており、御殿場市病院部会に奨学金制度の見直しを提言していく。一昨年8月より返済規定の見直しを行い、学生にとって、奨学金を利用しやすくなったため、今年度多くの学生の利用を期待している。

## 6. 病院、施設等における各種相談助言

### 6-1 医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク(他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク)を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行っている。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・病気にに関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からの就職相談・社会資源活用の為の相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料で対応する。

### 6-2 生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。入院患者増加もあり、年々利用者は増加傾向である。

平成12年1月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料とした。